

令和2年度 学校評価報告書

園名	三田市立松が丘幼稚園
----	------------

1 教育目標

「元気な子 心豊かな子 たくましい子」
 自己を発揮し、のびのびと活動する子を育む
 友だちと思いを伝え合い、心を通わせて遊ぶ子を育む
 自ら考え、工夫し挑戦しようとする子を育む

2 今年度の重点目標

『自分らしさを発揮し、共に育ち合う子の育成』
 ～幼児が自ら動き出す姿を支えるための、教師のかかわりを考える～
 学年 4歳児 安心して自分の思いを出し、友達とかかわりながら遊ぶ楽しさを味わう。
 5歳児 友達と思いや考えを伝え合いながら、目的に向かって主体的に遊びや生活を進める楽しさを味わう。

3 総合的な自己評価

今年度も、幼児の主体性を大切にする保育に努めてきた。4歳児は、5歳児の姿を間近で見ながら生活するという環境があり、憧れの気持ちをもって動き出す姿が多く見られた。また、5歳児は、昨年度の経験を活かし「次は自分達だ」という責任感や思いやりの気持ちをもって行動する姿が多く見られた。少人数の良さを活かしながら、幼児一人一人の思いに寄り添い、自分から動き出す「意欲」や「好奇心」、友達と一緒に考え、試したり工夫したりして取り組む「調整力」や「協調性」、友達と刺激し合いながら、諦めずに挑戦する「粘り強さ」など、様々な力につながるかかわりをしていくことができたのではないかと。今年度は、感染症対策という観点からも、園行事や活動の見直しができ、幼児が「やりたいこと」「見てほしいこと」を自分達で考え、主体的に進めていく活動において「自信」をもって取り組む姿が見られ、育つ力が大きかったと振り返る。一方、地域との連携、情報発信の分野において難しさを感じている。

4 総合的な学校関係者評価

・今年度も、子ども一人一人の考えや思いを伝え合うことを大切に、子ども達主体で取り組めるよう導いていただいた。子ども達が主体となり進めていくことで、より意欲的に取り組む姿を見ることができた。興味のあること、頑張りたいことに、多くの時間を与えていただくことで、継続してやり抜く力がついたように感じた。
 ・昨年の5歳児への憧れがとて強く、「大丈夫」「できるよ！」という自信がある中でも、自己中心的にならず、友達の気持ちを考えて待つことができていた。その姿を見ていた4歳児も、同じように憧れをもっているため、来年度が楽しみである。コロナ禍の中、制限が多くあったが、子ども達が毎日楽しみに通園できたことがなによりである。
 ・運動会や‘あそびのせかい’などにおいて、日頃のチャレンジタイムの成果が見られ、それぞれの運動能力や頑張る姿、楽しむ姿が窺えた。

5 評価結果

自己評価		学校関係者評価		
分野・領域	評価項目(取組内容)	評価結果及び分析	改善の方策	学校関係者評価委員会の意見
教育課程	学びに向かう力を豊かに育む保育内容の充実 ・幼児が心を動かし、自ら進んでかかわろうとする環境や保育の内容、援助の工夫 ・4, 5歳児が共に育ち合える交流の工夫 ・幼児一人一人の課題や発達する姿に応じたかかわりや環境構成の工夫	<ul style="list-style-type: none"> ・年度当初が臨時休園となり、安心、安定につながるかわりの時期に十分な時間がとれなかったという実情において、幼児の園生活を楽しみにする気持ちは例年以上に大きく、スムーズに生活や遊びをスタートすることができた。 ・昨年度の経験を思い出し、「楽しかったことをまたやりたい」という、5歳児の気持ちを大切に捉え、自分達で相談しながら遊びを展開していくことができるよう、環境を構成し、様々な支えていく援助に努めることができた。 ・少人数の利点から、4・5歳児が共に生活することができるため、互いに見て学んだり、相手を思いやりたりなど、積極的にかかわっていく姿が多く見られた。 ・4歳児の時期に育みたい「自己表出」「自己発揮」の力が、十分に受容されることで、しっかりと身についてきている。 ・5歳児の2学期以降、思うようにいかない葛藤体験を通して、幼児が自分の気持ちと向き合うことができるよう、「自己コントロール」「調整力」の育ちを大切にできた。自分なりに折り合いをつけて次に進んでいける力がついてきている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度、新型コロナウイルス感染症により、年度当初の保育が難しかった。新たな生活様式を取り入れながら保育をしていくことに努めたが、例年のようなスキンシップをとることや、表情豊かに接することができなかつたため、様々な方法を取り入れていく必要がある。 ・4歳児が、個々に自己発揮する力がついてきているため、今後は「他者との調整力」が育まれていくよう、幼児の実態に合った援助をしていきたい。 ・個別の指導計画を作成しながら、一人一人に応じたかかわりに努めている。引き続き、幼児の実態や課題を把握し、見通しをもって支えていきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・少人数ならではの密にならない環境で、伸び伸びと活動できたのではないかと感じる。 ・臨時休園が長期間になったが、新入園児が少人数ということもあり、5歳児は今までの経験と自信を発揮しやすく、ペースをつかみやすかつたのではないかと。先生方のスキンシップが少なくても、子ども達へは十分に伝わっていると思う。 ・それぞれの成長過程で、一人一人に応じたかかわりを持ち、見守っていただいた。 ・4歳児の時に5歳児へのあこがれの気持ちが強く、進級した時にその姿になれるよう同じようにやってみようしたり、友達と力を合わせたりし、子ども達の育ちにつながっているのだと思う。
子育て支援	親と子の交流や育ちの場としての役割、機能の充実 ・2, 3歳児プレ保育や園庭開放における活動内容の工夫 ・親と子が安心して集える場や情報発信の工夫	<ul style="list-style-type: none"> ・本園の園児とその弟、妹、保護者の方については、機会があるごとに、交流がもてるよう、工夫して取り組みを進めていくことができた。 ・2学期以降、子育て支援事業の再開をしたものの、3学期の子育て支援事業についても中止の判断をしたため、体験を通じた交流ができなかった。 ・プレ保育や園庭開放には、初めての方の参加もあり、園児との交流をもつことができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・人数が多くないため、密になることは避けられると考える。遊戯室や園庭等、広い場で交流ができるように計画していく。 ・掲示板やHP、園からのメール配信等、地域の方への周知に努めていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・未就園の子ども達も、先生方が同じように接していることから、園児と同じ気持ちを持たせてもらっていて、とても成長を感じられる。 ・家庭数が少ない分、兄弟がいる家庭へのアプローチも深くできるので、保護者から見れば安心して交流できたのではないかと感じる。 ・園庭開放では、子ども達の伸び伸びと遊ぶ姿を見ることができ、安心して遊ばせることができた。親子共に楽しめる場となった。
保護者・地域との連携	園運営、園行事への保護者や地域住民の参画 ・行事やPTA活動を通して、保護者同士のつながりを深め、幼稚園教育への理解を深める。 ・地域と連携した体験活動の工夫、様々な交流・連携の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者の方の理解や協力が得られ、幼児の主体性を大切に保育・行事を進めていくことができた。 ・例年の「音楽会」ではなく、園児が考えた「あそびのせかい」として、成長を確認することができた。 ・コロナ禍により、PTA活動はできにくい状況であったが、役割を分担して進めたり、できることを工夫して取り組んだりすることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・予定していた地域の方との交流ができなかったが、消毒作業に来てくださる地域の方と、かかわる機会もあり、感謝の気持ちをもつことができたので、様々な出会いを大切にしたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍で、地域との交流も制限された一年だったが、音楽会を‘あそびのせかい’に変えることで、今できる行事として園児たちも納得できていたのではないかと感じる。 ・新しく考えられた‘あそびのせかい’子ども達主体で、とても楽しい行事となった。 ・PTA活動だけでなく、保護者同士や園とのつながりはとても良好だったと思う。
学校園所連携	保幼小中連携の推進と小学校との円滑な接続をめざした取り組みの推進 ・幼小の様々な交流機会や職員連携の工夫 ・中学校区連携推進への参画	<ul style="list-style-type: none"> ・隣接する小学校との連携は、積極的に図ることができた。教師同士が、幼児や児童の姿や学びを共通理解できるように、研修の機会を設けたり、実際に保育や授業を見合ったりすることができた。 ・園児が困った時に、「1年生に聞きたい」「運動会の踊りを教えてほしい」など、小学生を頼りにする姿があったため、小学校の生活科の授業と絡めて進めていくことができた。互恵性のある取り組みとなった。 ・八景中学校区において、幼小中の取り組みの交流や情報交換をし、今年度の成果としてまとめている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度から、小学校の運動会への参加がなくなったため、5年生との交流ができにくくなった。進学時に6年生となる学年との交流は重要であると考えているので、次年度は計画的に実施していきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・小学生になることに、興味と不安があるので、小学生との交流や体験などの機会が多く、嬉しかった。 ・中学生のトライやるが中止になったため、貴重な経験ができず残念である。 ・‘あそびのせかい’で披露していた踊りは、小学生から教えてもらっていて、非常に良い関係づくりができていると感じた。 ・太鼓や踊りなど、長く引き継いで、縦の繋がりが益々強化されることを望んでいる。